

売り物にならぬ西瓜の残れるが陽に照らされて転がる夕

(R)

スイカの名産地・・・

大石田のスイカは甘くてシャリシャリしていて昔から大好きです。毎日食べても利尿作用があるためか体調もすこぶるいい感じでした。熱のたまった体を整えてくれるような気がします。小さい時はよく種飛ばしをして遊びました。(サクラランボの種飛ばしよりメジジャーです。)

黒ぼくの畑は水はけがよく、朝晩の温度差は甘いスイカを育ててくれるようです。特に新山寺のスイカは有名で、都会では高値で取引されるそうです。天候に左右され、病気にも弱いスイカですが、暑い夏には欠かせない野菜(果物)です。(朝から食べると夏バテするので注意。)

スイカの植え付けはいつもゴールデンウィークの頃。子どもの頃は毎年、手伝いでした。トンネルハウスを作ったり、植え付けしたり、水かけしたりして「みんなのように何処か遊びに出かけたいなあ。」と思っていました。収穫では「スイカってなんて重いんだろう。」と切実です。畑の中から収穫されたスイカは畑の外で受け取る人にポーンと放って手渡します。一輪車に積んで運んだり、南京袋に詰めて背負ったりして運びました。畑で食べるスイカは地面に落として半分に割り真ん中に手を突っ込み中央の甘い所だけ頂きます。おいしいスイカは肩が張っていて指で優しく叩くと「元気で食べごろです。」と返事をしてくれます。スイカに付いている蔓が短めなのがおいしいですよ。・・・

温風至る(おんぷういたる)

7月7日～7月11日頃

先日一関の町ガイドのメンバー17人を黒滝に案内した。大桂、大銀杏そして仏舎利塔、苔むした根が地表に出ている参道。江戸時代に芭蕉がちょうど今頃大石田に泊まって向川寺に参詣してる。今回は猛暑日で気温も35℃超え。中学生の頃、夏休みになると無人の本堂の中でおさらし帳を書いた。中はヒヤッとして涼しく、宿題も日記も一日で終え後は「明日から勉強無しの夏休み」。(木霊)

蓮始めて開く(はすはじめてひらく)

7月12日～7月16日頃

夏野菜が沢山採れました。生の野菜を刻むだけの“だし”ですが食がすすみます。家によって材料に違いがありますが、我家では定番の野菜の他に必ずとうもろこしと紫玉ねぎが入ります。甘みと辛みが合わさり絶品。冷奴にのせて食べるのも美味。都会暮らしの息子が買って食べたなら味が違うと。栄養のバランスも良く○(き)

鷹乃学を習う(たかわぎをならう)

7月17日～7月21日頃

幼かった頃、通りは砂利道でした。家の前の堰には水がどんどん流れていて暑い日は柄の長いひしゃくで打ち水(水まき)をするのでした。間口いっぱい道真ん中あたりまでかけます。埃っぽい乾いた道は水をまくとすごく涼しいのです。すぐ乾きますが、どこの店先でも見かけた夏の思い出です。(み)



2014.7 横山側大橋から

読書会だより ⑳

大石田七十二候読書会・大石田町立図書館

大石田の小暑のころ

七十二候より

大石田町の町民歌は齋藤茂吉著『白き山』の一首より「最上川の上空にして残れるはいまだ美しき虹の断片♪」です。町外の先生方には「覚えやすい良い町民歌だね。」と褒めていただきありがとうございます。町内の小中学校の卒業生はみなさん歌えるのではないのでしょうか。花火大会では合唱したいものです。

畑では美味しいトマトや胡瓜、茄子がたくさん採れるようになりました。